

対談／牧尾議員、加根議員が聞く

東広島の農業

表紙写真／ファーム・おだ 吉弘組合長理事

今回は、農事組合法人の代表者の皆さんに、東広島の農業について、インタビューをしてみました。

農業を取り巻く環境や、農業政策に対する思いや、農業を通じて、地域が抱える課題に対する考え方や今後の将来についてお話をお聞きしました。

プロフィール



農事組合法人
代表理事
さだしげ
敬一郎さん

◎設立 平成13年
◎経営面積 42ha
◎特徴 特別栽培米の生産、市民農園の運営



農事組合法人
組合長理事
ファーム・おだ
吉弘 昌昭さん

◎設立 平成17年
◎経営面積 107ha
◎特徴 米粉パンの販売（6次化産業）、アスパラガスの生産



農事組合法人
代表理事
かみみなが
吉郷 陸彌さん

◎設立 平成16年
◎経営面積 33ha
◎特徴 お米種、米粉の販売（6次化産業）

地域を守るために地域の財産（農地）を使う。
これが法人化でした。正解だったと思います。

Q 自己紹介をお願いします。

敵 今年で14年目の活動になります。おかげさまで、今年の12

月に42ha、組合員さんが56名、この地域内にいらっしやる方が100%の加入になりました。非常

にうれしいのと、それだけ農業が行き詰まるとあるという反対派しだと思えます。

吉郷 10年目で、当初は28ha程度だったんですが、現在は33haになっとります。という

のは、働けんようになって、自然と組合員数が増えとります。米を農協さんへ2割程度、あ

とは自分で販売していますが、ほとんどが病院系統です。吉弘 9年目で、昨年の人・農

地プランでは103haなんですけど、小学校区を一つの農場として考えてやっております。

目的は、「農地を守りながら、若い人の受け皿になる。」幸い、現在、50代以下が12名ほど来てくれとります。特徴は、土に徹底し、最初から堆肥を入れて特別栽培米・エコファーマーをやってきて、今では農業を減らしたら虫が出てきました。それから、今度は、シジミが増えて



1. 東広島市の農業についてインタビューを受ける農業法人の代表者
2. 米粉を使用したパンの販売
3. こだわり米を栽培している、法人さだしげの市民との田植え
4. アスパラガスのハウス栽培
5. お米を使用したお米麺

きました。

Q 今の農業や農業政策をどのように思われていますか。

吉弘 国の施策というのは猫の目行政。現場が一番困る状況なんです。主要施策は10年は最低続ける。そして、10年後に費用対効果がどうであったんかということだと思えますね。2、3年でころころ変わったら覚える暇も何もない。

吉郷 国の政策を云々言われても、よくわからん。今回も説明会聞いても、理解できにくいよ。みんなもわかるんかね。

畝 非常に嬉しい言葉をいただいたことがあって、年に4回ぐらい市民の方々のイベントの中で、椎茸の原木を切って親が穴を開け、子どもが打ち込む。そしたら、「椎茸を食べなかつた子どもが食べるようになった。」と言われました。

Q 農業後継者はどう育てていますか。

畝 この5年間に6家族帰ってきてくれました。きっかけは

「農業せんでもいい。」です。法人がほとんどするわけですから。春、秋1回の割り当てをつくって、少しずつ覚えてもらうんです。そういった形で少しでも負担に帰ってきてくれる子どもが増えれば後継者になると思います。

吉郷 女性の視点からのさまざまな柔軟な発想があると思いますよ。女性の力を活用したら野菜づくりも進展できます。

Q 最後に何か、一言お願いします。

畝 我々法人もいろんな問題に直面しているんです。だが、集落営農せざるを得ないのが実情だと思いますんで、後押ししていただいて、法人が40、50になれば農業そのものが変わってくると思います。

吉弘 荒廃地になったら、人の心もすさむんですね。そうならないように法人化を進めていって、学校給食は地元のもので買う。それを実行できるモデルを支えてもらいたい。